



兵庫県立大学環境人間学部の学生がパッケージをデザインした「仙霊茶」。



出資者で中心的役割を果たす秋山紀史さん(左)、鶴野嘉夫さん(右)と、事業を引き継ぐ野村俊介さん(中央)。後方には7haの茶園が広がる。

地域の茶園を住民が守り、つなぐ 住民主体で事業承継と地域ブランド化に挑む

地域資源の活用や地域ブランド化は、地域創生の重要なテーマです。今回は、存続の危ぶまれた地域産品を、地域住民が一体となり承継につなげた事例をご紹介します。

「仙霊茶」を残し、広めようと 産・学・官・金が連携

兵庫県神戸市は、歴史ある茶の産地ながら、近年、生産農家の減少や高齢化により茶栽培は衰退し、2015年、ついに生産組合が解散。その際、地域住民から「数十年かけて育ててきた茶園を放棄するのは惜しい」との声が上がり、地区の自治会役員らの出資で有限責任事業組合(LLP)を設立。新規就農者への承継をめざし、地域をあげて茶園の存続に乗り出しました。地域住民、大学生、地元の幼稚園児や小学生らが草取りや茶摘みに参加。元茶生産者の指導を受け、

すべてボランティアで7haの茶園を維持・管理しています。天候不良により1年めの茶葉収穫量は従来約5分の1でしたが「仙霊茶」のブランド名を冠して1008900円で販売を開始しました。「何よりの収穫は、自治体の補助金に頼らず、学生や地元の商店街、バス会社などが販売協力を通じて一体となったことですね」と語るのは、出資者の一人で中村・栗賀町地区の鶴野嘉夫さん。17年秋以降は、農業と茶園に惹かれて神戸市に移住した元会社員・野村俊介さんが事業を引き継ぐ予定です。「課題は自治体への売上割合が高いこと。販路拡大に加え、今後は『仙霊茶』を使ったスイーツなどを開発して収益の安定化を図りつつ、すばらしい自然環境や農業体験を楽しめる場として茶園に観光客を呼び、地域活性化

にも貢献したい」と意欲的です。組織経営への脱皮に成功すれば、茶園経営を組織化した点が素晴らしいです。課題は、事業規模が小さく、自治体に依存している点で、今後は営業力の増強が求められます。茶葉小売市場への展開は厳しいため、県内の飲食店での活用や企業とのコラボレーション(販促物利用)などが考えられます。また、営業に強い人材の獲得も鍵となります。生産側の組織化に成功したいま、次に営業力をつけることで、地域の新たな成長事業として発展できそうです。但陽信用金庫は神戸町の「お茶園継業事業」に当初より積極的に関与され、ビジネスモデル構築や、LLPの設立、販路開拓などを支援されています。

ちょっとインタビュー

清水秀朗さん
管理部管理係 係長



ものづくりが好きで、工業系の学校を卒業後、愛知県の自動車部品メーカーの勤務を経て平松精工(有)に入社。2012年の分社時に、出資に加わり(株)賀陽技研に移籍しました。管理部には細かな業務がたくさんありますが、無理難題と思われることにも「できない」とは言わず、周りの協力を得て解決するよう心がけています。どんな仕事でも、興味を持って情報を集めることが大切ですね。出資した理由は、社長の語る夢にひかれたから。トップに明確なビジョンがあると、自分も何をすべきか考えることができる。意識を共有し、みんなが同じ方向に向かってまい進していけることを願っています。

株式会社賀陽技研 PROFILE

所在地: 岡山県加賀郡吉備中央町黒山12
TEL: 0866(56)7109
FAX: 0866(56)8335
http://kayougiken.co.jp



▲(株)賀陽技研のロゴマーク。同社の前身・富士電機工業(有)の創業年の干支が丑年であったことから、堅実に力強く、辛抱強く商いを続ける願いをこめて、牛をモチーフにデザインされた。



▲事業継続に関する取り組みを積極的に進めている事業者を、内閣官房国土強靱化推進室によるガイドラインに基づき「国土強靱化貢献団体」として認証する「レジリエンス認証」を、第1回で取得している。

させてほしい——父と同じように、人に甘えることなく経営者としての実力をつけたい思いから、そう父に申し出て、弟(常務取締役)と清水係長の3人で出資して独立。12年、賀陽工場を(株)賀陽技研として設立しました。平松精工(有)からは、10名が移籍。平松さんは、「顧客に安心され喜ばれ頼りにされる会社」「笑顔と力が合わさり次世代へと続く会社」の経営理念(抜粋)を掲げ、新たな船出を果たした。しかし、第1期の実績は赤字。「第2期は黒字になったものの、気をよくして昇給したところ、第3期は再び赤字に」と、経営判断のむずかしさを痛感したという。また、いまでは20名に増えた従業員だが、当初は1名の欠員で業務が滞ることもあった。「金型部門で頼りにしていた従兄弟が、体調を崩して早期退職することになり、現場は大混乱。折悪く私は盲腸を患ったのですが、そのときは手術で休むこともできないほど、業務に忙殺されました」。そんな経験もあり、人員欠如による緊急時にもBCPが機能するよう、ネットワーク構築に力を注ぐように。また、インターンシップ制度の利用や、新入社員への積極的な技術指導など、人材育成の

強化を図っている。設立6年めを迎えたいまも、試行錯誤は続いているが、3D金属加工技術を活かして、アーティストとのコラボレーション、テレビアニメやゲームの展示企画における金具・オブジェ製作などの依頼も受注。今後は、技術の応用が楽しさにつながる分野の開拓にも力を入れていきたいと話す。「海外の顧客獲得も視野に入れ、営業に力を入れていく考えです。また、さらなる技術力の向上に努め、いつかは自社製品を開発したいですね」と、ものづくりの未来に大きな夢を託している。